

## 会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号)	令和3年度すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会 第2回「親と子の健康部会」		
開催日時	令和3年7月15日(木) 午後1時～2時30分			
開催場所	墨田区役所12階 121会議室			
出席者数 (11人)	<p><b>【外部委員】</b>  墨田区民生・児童委員協議会 第2地区会長 齋藤 正樹  公益社団法人墨田区医師会理事 中林 靖  公益社団法人東京都助産師会墨田・台東地区分会 秦 万理</p> <p><b>【庁内委員】</b>  本所保健センター所長 瀧澤 俊享  本所保健センター保健指導係長 村山 朗子  本所保健センター事業係栄養士 田中 友子  本所保健センター事業係歯科衛生士 鎌田 はるか  子育て支援課子育て計画担当主査 清水 洋平  子育て政策課児童館担当主査 白杵 正昭  子育て支援総合センター子ども相談主査 田島 あゆみ  学務課給食保健・就学相談担当主査 長島 新吾</p> <p><b>【欠席者】</b>  指導室指導主事 奥井 伸</p> <p><b>【事務局】</b>  保健計画課健康推進担当 松本・川井  株式会社ルネサンス  株式会社クレメンティア</p>			
	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる)	非公開(傍聴できない)	傍聴者数	なし
議 題	1 開会 2 本所保健センター所長 挨拶 3 議事 (1) 前回の振り返りと施策体系等の変更点 (2) 基本目標 の施策と事業について (3) 事業と指標の関連について (4) その他 4 閉会			

配 布 資 料	1 すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会「親と子の健康部会」委員名簿 2 第1回「親と子の健康部会」議事録 3 ご意見シートまとめ 4 すみだ健康づくり総合計画 施策の体系【修正版】 5 すみだ健康づくり総合計画事業一覧 6 事業と施策の関連について 7 基本目標 改定案【修正版】 8 ご意見・ご質問シート 【参考】 すみだ健康づくり総合計画
---------	--

会 議 概 要	1 開会 2 本所保健センター所長 挨拶 3 議事 (1) 前回の振り返りと施策体系等の変更点 資料2～4に基づき、事務局より説明  (2) 基本目標 の施策と事業について 資料5、7に基づき、事務局より説明  - <u>切れ目のない妊娠・出産・育児支援</u> 【意見・質問等】 齋藤委員：前回村山委員からネウボラについての話があり、非常に興味深いものだったので、追って資料を見た。渋谷区が実施している「ネウボラ渋谷」のように妊娠から子育てまでのサービスができるコーディネーターを中心に窓口となりコンシェルジュを作ろうという趣旨なのか。それが日本版では子育て世代の包括支援センターになる、といったような位置づけが大切だと感じる。拠点はどこになるのか、また、コロナ禍での状況などのお話を伺いたい。 村山委員：ゆりかご・すみだ事業に関しては、昨年度はコロナ禍の中で東京都が育児パッケージを追加したため、例年以上に妊婦の相談があった。墨田区の「ゆりかご・すみだ」は今年で6年目であり、現在23区で実施していない区はないのではないか。妊娠届の提出先は各自治体によってバラバラで、墨田区では区役所と保健センター、出張所、そして子育て支援総合センターとなっているが、ゆりかご・すみだ事業は面接を行う必要があるため、窓口が限定される。例えば、出張所では妊娠届を提出できるメリットと、面接ができないデメリットがある。このような方にはお手紙をだすなどの啓発をしており、現在は順調に実施できているが、新保健施設になり、面接が1か所のみとなると、出張所などで届出をした後面接を受けてもらえないといった課題が想定される。また、コロナ禍で、昨年は完全にストップしてい
---------	---

た各健診や学級についても、今年は実施しているが、密にならないように定員制や予約制としたことで、使いにくさがあることが課題である。新保健施設の開設に向けて対策をし、受け入れ人数を増加できるようにしたい。

齋藤委員：続いて、子育て支援課の清水委員へ情報提供の課題や工夫についてお伺いしたい。

清水委員：情報提供は、必要な方へ必要なタイミングで確実に届けることが重要だと思う。そのうえで、事業を利用してもらうために、認知度を向上させていくことが課題になると思う。ガイドブックや子育てアプリ、HPなど方法は様々あるなか、媒体によって長所や短所があり、認知度の違いもある。一方で、昨年の緊急事態宣言において周りとのかかわりが絶たれてしまい、虐待や家庭内暴力にもつながったと聞いている。そんな時に区に相談ができていたら変わったと感じるし、相談窓口を知らない方が4割いたので、いかに各事業の認知度をあげるかが必要だと感じている。

齋藤委員：子育てアプリはスマホで利用できるもので、ガイドブックは冊子（本）状のものと認識している。事業の関係がわかりにくい。

清水委員：ガイドブックは2年に一度更新している。

齋藤委員：やはり情報が大切であると感じる。

次に、中林委員に一覧をご覧になって気になる点があればお伺いしたい。

中林委員：一つだけ気になった点は、メンタルヘルスに関しては産後に急に発生するものではない。妊娠期からメンタルヘルスに関わっていれば介入できると思う。産後ケアは妊娠期から始まるもので、文章的にはこれで問題ない。

事務局：実際にゆりかごの面接でも、メンタルや不安などの相談はある。

村山委員：妊婦さんの既往歴をアンケート項目に入れてある。メンタル面については記入してくれる人もいれば、そうではない人もいるので、そのような方は面接の際に要支援の妊婦として継続フォローをするようにしている。

中林委員：当院の問診票では、メンタルクリニックに受診歴があるかを確認する一文を入れている。

齋藤委員：前回の部会で横断的に使えないか話題にあがったが、どうなっているのか。

中林委員：いずれは使えるようになると思うが、現在は各区で対応が異なっている状況である。

齋藤委員：どこで出産するかはわからないので、全国的に統一していかないとと思う。

事務局：実際に産後ケアは法律でも位置づけられているので、先生がおっしゃるように横断的に実施できると良い。

秦委員：例えば、中央区のクリニックでは、お産をやめて産後ケアを中心にしている。また、品川区と港区と中央区では助成金の出場所は異なるが、区をまたいで受けられるようになってきている。今後どの区でもそうなると良い。墨田区の場合は、ケアを7回受けられるようになっており、回数がとても多く、自己負担も23区では一番低いので、墨田区の基準が広まると良い。他区では4回というところもあるので。

齋藤委員：産後ケアは大切と実感している。精神的なヘルスはどの区でも受けられる

と良い。

村山委員：アプリでの情報提供について補足したい。区で受けられる様々なサービスは子育てアプリから読み取れ、予防接種のスケジュール管理もアプリでできるとなっている。基本は、次の接種時期に発信されるが、予約を促す連絡が先がないと結局ずれていってしまう。その結果として、一般のアプリを使い、区のアプリは活用されていないことを実感している。可能であれば、予約の時期に促すようなこと、接種や健診の予約の時期だよという発信ができれば、区のアプリのほうが使いやすいと感じてくれるのでは。

#### - 子どもの健やかな発育・発達支援

##### 【意見・質問等】

齋藤委員：子どもの健やかな成長を支援するうえで、虐待は大きな課題である。

田島委員に、補足と事業推進の上での課題があればお願いしたい。

田島委員：アーリーケア事業は虐待の未然防止のため、今年度から都のモデル事業を活用し、早期の妊娠時から予防的にかかわる事業である。現在妊婦さんに対し保健センターの保健師が行っている支援に、専門職のソーシャルワーカーもかかわって一緒にフォローしていくものである。特定妊婦の扱いについて保健センターとの間で基準や取組が明確ではなかったため、今後モデル事業実施の中で検討していくことを補足させていただく。

齋藤委員：虐待問題については民生・児童委員協議会でも一昨年あたりから活発に話す機会がある。虐待関連の情報が倍くらいに増えた。最近が高齢者より子育てにシフトしており、昨年も現場サイドでは色々な問題があり、通報者の秘密は守るが特定できてしまう、誰が言ったのかわかってしまう、といったことがものすごく問題になる。民生委員が入って、伝えるケースもある。これは対処法があるのか、児相に任せるのが良いのか。これも産後ケアの延長ではないか、望まれていない子が生まれるケースもあるので、このあたりがワンストップで支援できればと感じている。

村山委員：産後ケアや赤ちゃん訪問で訪問すると、在宅ワークが増えており、子育て世代の近所に単身の方が生活することも増えた。すると、クレームが同じマンション内で出てきてしまい、周りに気を遣うケースも多くなってくる。また、「昼間リモートワーク中なのにうるさい」や「バタバタと足音がする」など日常茶飯事で聞こえてくるので、ストレスで住めないという人も増えた。

齋藤委員：それに加えて、夫婦喧嘩も増えているように感じる。あれも虐待ではないか。死亡につながってしまったり、望まない妊娠をしたりする前に、何とかしたい。

田島委員：泣き声についての通報があり、行ってみると普通の家で、通報した方に子育ての経験がない場合、うるさいと感じる状況もある。ただ、なぜそういったことが起きているか調査に行き、何に困っているかの手当をし、虐待の次の解消に協力いただければと思う。

齋藤委員：高齢者の場合は、地域包括支援センターと一緒に全戸訪問する。すると、

家の状況がわかる。

そのあたりを把握すれば次の段階でもつながっていけるが、子どもたちの場合は点でしかつながらない。引越してこられた方などは全くわからない。生まれてからずっと高齢者のようにお祝い金を持っていくような仕組みがあってもよいのではないか。一回玄関先まで行けばその家庭がどういう家庭かわかる。一括してうまく支援できる仕組みがあれば良い。もちろん、これは大変な問題かとは思ふ。

児童館と地域との交流の取り組みについて白杵委員にお伺いしたい。

白杵委員：町会と連携して、地元のお祭りや防災訓練に参加している。あとは、近隣の道路や公園の清掃活動を児童館の子どもにお願いしている。高齢者施設への訪問や、児童館にお越しいただいて地域との交流もしている。

齋藤委員：児童館がないところもあると思うが、配置状況はどうか。

白杵委員：区内の小学校2校に対して1児童館という配置で、区内では全11館ある。

齋藤委員：それはだいたい地域を網羅しているような形か。

白杵委員：そうだ。

#### - 安心して子育てできる保健医療体制の整備

##### 【意見・質問等】

齋藤委員：子どもたちの健康で課題に感じていることや、連携ができればよいと感じていることがあれば、長島委員にお伺いしたい。

長島委員：生活習慣病予防で言うと、児童の肥満は課題だという認識がある。次に、タブレット教育が進む中で視力の低下が進まないか健康診断で定期的に観察する必要があると考えている。また、コロナ禍での運動不足もかなりの課題であり、水泳授業も工夫していく方針で、運動不足による健康被害を懸念している。さらに、コロナ禍でのこころの健康もかなり気にしている。

齋藤委員：では、前回話題に上がった助産師の養成所についてその後何かあったら、中林委員にお伺いしたい。

中林委員：喜んでやらせていただきたい。ただ、これから秋口にかけては実習期間があるので、その期間だけは難しい。国家試験の終了後はまたウェルカムな状態となる。教員は教えることが好きだし、学生に教えるところを見せたいと思う。ぜひ声をかけてあげてほしい。

齋藤委員：ぜひよろしくお伺いしたい。

事務局：9月ごろに保健所実習で助産師学生さんが来ているので、そこで準備などもできるとよいのでは。

秦委員：東京都助産師会でも「命の講座」をやらせてもらっているのだから、依頼があれば可能である。

齋藤委員：学校の歯科保健との連携について鎌田委員にお伺いしたい。

鎌田委員：3歳児健診では虫歯のない子どもが90%ほどで推移しているが、中学校に上がると増えてしまう。口の中に関しては、子ども本人は関心が低くどんどん虫歯の子どもが増えているように感じる。また、中学生に対しては何

もやっていないのが実情である。健診結果に基づいて、結果のチラシは渡しているようなので、必要であれば進めていけると良い。

齋藤委員：なぜ中学校にはいると虫歯が増えてしまうのか。

鎌田委員：おそらく、小学校低学年までは仕上げ磨きをしているからではないか。

齋藤委員：その後は放置してしまうということか。

鎌田委員：ずっと磨いてあげられるとよいが本人の自主性もあるのではないかと。あとは、お菓子を食えることが習慣化していくこともある。

齋藤委員：駄菓子屋に行くなどが。

鎌田委員：若い方は、口臭や歯並びのほうに興味を持ちやすいのかなと思う。それにプラスして歯周病の話もできたらよいと思う。

齋藤委員：今の件以外で何かご意見あるか。

#### - 学童期・思春期からの健康づくり支援

##### 【意見・質問等】

齋藤委員：保健施設が新しくなり、区民の期待もある。瀧澤委員に現在のイメージがあれば伺いたい。

瀧澤委員：現在、区議会からもどんな施設が問われている。子育て・教育の部署が集まり非常にすごいことであるが、予定では子育て分野では子育て支援総合センター、教育分野では教育研究所の一部が移転するとなっている。一部とは、不登校の子供が勉強や進学先の相談などの支援の部門。運用検討会が最近発足し、母子・精神・健康づくり全般・教育の4つの観点で検討していくという方向性が決まった。だが、それぞれの部門が何をしているのか区役所の人間でも正直わからない。まず、各部門が何をしているか、目的が同じものや課題は似ているが対象者が違うことなどを整理し、来年の2、3月ごろには区議会に報告できるよう検討している。

齋藤委員：利用する側の意見としては、項目がたくさんあるとどこに行けばよいか、困ったときに問い合わせする先を一括して決めるなど、うまくできる仕組みを考えてほしい。

瀧澤委員：まさにこれから検討していくので、ご意見あればぜひ伺いたい。

村山委員：子育ての相談にしても、現在は、保健センター、子育て支援総合センター、児童館など色々なところでやっている。現在は、相談しようと思った人が自分で選択をして相談することが可能だと思うが、新保健施設になり、それが一か所に集まってしまうことで、身近にできていたことが遠く感じることもある。しかし、相談をすればいろいろな部署が一緒になっているのである程度ワンストップで相談できる施設になるとよい。今は、区役所へ相談しても保健センターにご連絡ください、などたらい回しにされてしまう面もあるように感じている。様々な面からの相談に乗れると良い。

齋藤委員：まさにこの部会のタイトルにある「包括的な」というこのとおりにしてもらえるとよい。

秦委員：東京都助産師会のオンライン相談も、墨田区の利用者がだいぶ増えてきている。以前までは墨田区の方はオンラインでの手続きが得意ではないよう

に感じていた。コロナ禍で、オンラインのような新しい取組も増えており、保健センターは遠いが、オンラインでなら相談できるという方もいるのかなと思う。また、オンラインでの相談だからこそ、ご家族や地方に住む親族も一緒に参加することで育児方針が見えてくるのはよいと思う。

中林委員：この新しい施設は楽しみで仕方ない。場所の問題だが、3か月健診に行きやすい人と行きにくい人がいるのではないかな。あとは、ゆりかご事業に支障がでるだろうなと感じる。新保健施設だけでなく、出張所などでも対応できると良い。生まれて間もない赤ちゃんを連れて遠くに出るとするのは難しいのではないかな。そのあたりを検討していただけるとよい。医師会の会長は小児科医なので相談もできるのではないかな。

齋藤委員：そのほかにご意見があれば。

田中委員：私は栄養士なのだが、子育て支援総合センターの職員から、離乳食の資料があれば欲しい、とか、こういった相談は受けていただくことができるか、といった相談を受けることがある。子育て支援総合センターの保育士が説明をしていると聞くので、連携が取りやすくなる。様々な事業を一緒にできるという期待もある。

事務局：スタジオなどで一緒に事業を行うこともできるか。

田中委員：新保健施設の設計の時に、厨房施設や家庭科室を入れるという話があったが、そうなると建物全体での管理となり、包丁などの備品管理はできないとなった。また、災害時食支援の拠点としての機能は無いようにも聞いている。

齋藤委員：近隣には、警察や消防などがすべてそろっているように感じるが。

田中委員：栄養士の意見としては挙げていたが、設計時に不要という判断になった。栄養室には、離乳食の作り方を見せる師範台は残しているが、実習ができる場所はない。今からそれだけの施設を入れるというのも困難である。

齋藤委員：子育ての方からはいかがか。

田島委員：田中委員からも話があったように、子育て支援総合センターでも保育士がやっている事業があり、そのなかで様々なお願いをすることがあり、虐待などが気になる子どものことを各方面へ問い合わせする。そういった子どもをどうしていくかを一緒に考えていくうえでは、物理的な距離が離れているよりも相談がしやすくなるかなと感じる。教育相談も含めて一緒にやっていくことを期待している。

齋藤委員：やはり、区民目線になりワンストップでやっていく。そういうイメージが私にはある。

### (3) 事業と指標の関連について

資料6・7に基づき、事務局より説明

### (4) その他

資料9に基づき、ワークショップについてご案内

4 閉会

	<p>瀧澤所長：今後、皆様のご意見を踏まえて、引き続き計画案の改定作業を進めていく。作業部会としては今回で終了となるが、追加のご意見、ご質問などあれば、事務局までご連絡を賜りたい。以上をもって、令和3年度「すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会 第2回『親と子の健康部会』」を終了する。</p> <hr/> <p>会議の概要は以上である。</p>
所 管 課	福祉保健部 保健衛生担当 保健計画課 健康推進担当 （内線 3505）